

STRIVE FOR



瀬戸SOLAN学園初等中部
2026年度第5学年 学年通信
第5号 5月1日発行

学級がスタートして、早いもので1ヶ月が経ちました。最近、ゴールデンウィークの予定を嬉しそうに話してくれる子どもたちの姿が多く見られます。

今日は、1年生を迎える会が行われました。4年生の2月から準備を進めてきた子どもたちは、一生懸命に頑張っていました。当日の様子は、また別の学年通信でお伝えしたいと思います。この連休、思い切り羽を伸ばしながらゆっくりと休んで、また元気な顔で再会できることを楽しみにしています。

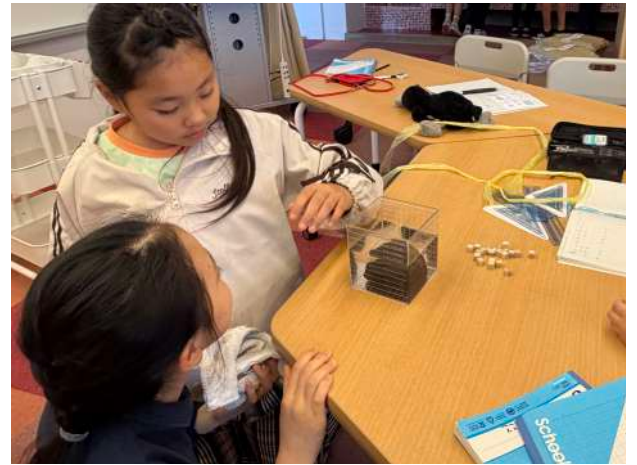
以下、担任からの各クラスの通信です。



【1組通信】日本人担任 鈴木より

算数では、体積の単元に取り組んできました。4年生で学んだ面積の考え方に「高さ」の要素を加え、立体の大きさを測れるようになることが、目標の一つです。

単元の始めに、子どもたちに2つの石を見せて「この2つの石、どちらがどれだけ大きいのだろう」と尋ねてみました。最初は「ゴツゴツしていて長さも色々なところで違うから…無理じゃない？」という声もありましたが、やがて「重さを測ればいいんじゃない？」「ロープを巻きつけて長さを測る！」などこれまでの学習を手がかりに一生懸命考える姿が見られるようになりました。



石の大きさを考える子どもたち

今回求めたいのは、長さや重さではなく「大きさ（体積）」です。石を四角い水槽に沈め、増えた水かさ（容積）を体積に変換することで求められる、ということ子どもたちは授業を重ねる中で少しずつ理解していきました。「たて×よこ×高さ」の考え方、容積の求め方、体積と容積の単位変換……。一つひとつの知識を積み上げてきた子どもたちは、単元の後半には、これまでのノートを見返し、学んだことを使って、グループで協力して問題に挑もうとする姿を見せてくれました。

算数がただ問題を解くだけでなく、日常生活とつながっていることを感じながら学べるよう、これからも工夫して指導してまいります。

【2組通信】日本人担任 樋口より

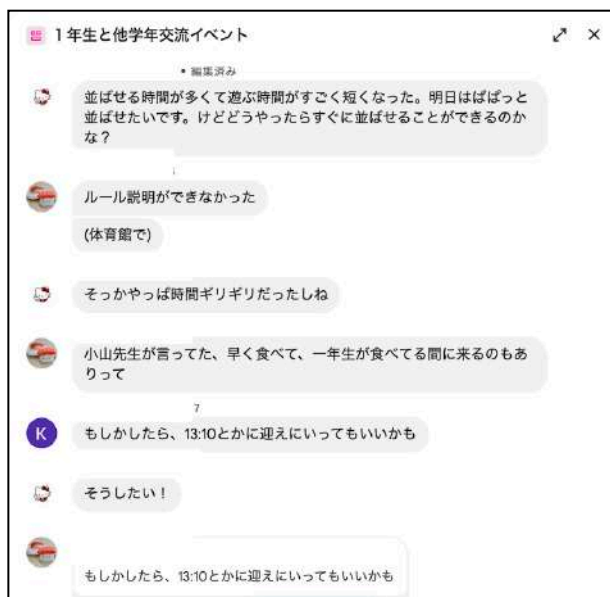
East棟の最高学年としての自覚が、日々の行動に表れるようになってきました。現在、5年生は「チーム探究」の授業で『1年生を迎えようプロジェクト』に取り組んでいます。①1年生の生活サポート、②1年生と他学年の交流イベント企画、③1年生を迎える会、の3つの活動に取り組んでいます。

① 1年生の生活サポート：戸惑いが「喜ばせたい」に変わるまで

新学期早々からスタートしたこの活動。朝の時間やスナックタイムに1年生の教室を訪れ、準備を手伝ったり一緒に過ごしたりしています。

当初は「1年生が何を考えているかわからない……」「泣いちゃった、どうしよう」と戸惑う声も聞かれましたが、次第に「絵本を読んだら喜んでくれた！」「外遊びで仲良くなったよ」といった前向きな報告が増えてきました。相手の立場に立って考える難しさと喜びを、肌で感じているようです。

② 1年生と他学年の交流イベント企画：寄り添う姿に見える「頼もしさ」



チャットを活用してふりかえる

休み時間に1年生と他学年が交流できるイベントを企画・運営しています。体育館やスタジオで、「だるまさんがころんだ」「UNO」など、いろいろな活動を用意しています。

「どうすれば1年生が喜んでくれるか」を軸に、実施後はチャットを活用して振り返り、次の改善に繋げる……というサイクルで動いています。

印象的だったのは、体育館で水筒をなくして泣きそうになっていた1年生への対応です。そっと寄り添い、1年生と同じ目線になるよう屈んで優しく声をかける5年生の姿に、最高学年としての大きな成長と頼もしさを

感じました。

③ 1年生を迎える会の企画：失敗を糧に「目的意識」を持つ

いよいよ5月1日（金）の「1年生を迎える会」の本番に向け、準備も大詰めです。先週のリハーサルでは「指示が伝わらなかった」「細かい段取りが決まってい

今日はプロジェクトが疲れましたでも1年生の楽しんでも顔が見たいから頑張ります今日ゲームのことを考えたりしました次回頑張ります。

A

今日は、リハーサルをやりました。予想通りかなりぐだぐだしていました。もう来週本番で、すごく心配です。かまわずに原稿を言えました。来週、本番で1年生に楽しんでもらえるように全力を尽くしたいと思います。

S

なかった」「ぐだぐだだった…」と多くの課題が見つかりました。しかし、そこからの修正力が5年生の素晴らしいところです。

チーム探究のふりかえりより

「もしイレギュラーが起きたら俺が動くよ」「スライドのタイミングも合わせよう」「立ち位置はどうする？」と、自分たちで細かい段取りを明確にし始めました。振り返りシートにも「1年生に楽しんでもらうために全力を尽くしたい」という記述が増え、「何のためにやるのか」という目的意識が強固になっています。新学期から「East棟のリーダーになろう」と呼びかけてきましたが、このプロジェクトを通して、その言葉が子どもたちの中で現実味を帯びてきました。これからも、上級生として成長していく彼らの姿をしっかりとサポートしてまいります。

【3組通信】日本人担任 小山より

教室には、子どもたちの前向きな声や笑顔が少しずつ増え、学級としてのまとまりも感じられるようになってきました。それぞれが自分のペースで力を伸ばしながら、日々の学校生活を充実させています。一方で、休み時間の後に気持ちを切り替え、時間を守って行動することについては、まだまだ課題も見られます。今後も声かけを行いながら、よりよい生活リズムを整えていきたいと考えています。

体育では、走り幅跳びの学習が始まりました。クラスでは、3mの記録が出ると「すごい！」と歓声上がる段階ですが、小学生の日本記録が男子5m74、女子5m33であることを知り、「そんなに跳べるの!？」と驚きの声が上がりました。それと同時に、「少しでも記録を伸ばしたい」と、筋力アップを意識する姿も見られるようになってきました。

家庭科では、裁縫の学習に取り組んでいます。初めて針と糸を使う子どもたちは、糸通しや玉結びに苦戦しながらも、一つ一つの工程を丁寧に進めています。一方で、これまでに経験のある子どもたちは、手際よく進めながら、困っている友だちに優しく教える場面も見られました。それぞれのペースで学びながら、できることが増えていく喜びを感じている様子です。

また、週末の過ごし方についても、子どもたちからさまざまな話を聞くことができました。算数や英語のプリントに進んで取り組んだという声や、ご家族でのお出かけを楽しんだ様子など、充実した時間を過ごしていることが伝わってきました。いきいきとした表情で話してくれる姿が印象的でした。

さらに、ブライアン先生の奥様が、もうすぐ出産を迎えられるということで、クラスみんなで「出産がんばれ！」のメッセージを送りました。「痛いだろうなあ」「腹痛の100倍って聞いたことがあるよ」など、子どもたちなりに想像しながら、思いやりの気持ちを言葉にする姿が見られました。



体育の走り幅跳び



走り幅跳びの待ち時間に大縄跳び